

令和五年度

# 小論文

(60分)

短期大学部 キャリア開発学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて二ページである。
- 三、解答用紙は、一枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

# 問題

短期大学部 キャリア開発学科

## ※問一は略

問二 左の記事は、内閣府男女共同参画局が令和3年5月に発刊した「共同参画」からの抜粋である。世界経済フォーラムが公表した「ジェンダー・ギャップ指数2021」についての国際比較とその解説が記載されている。記事をよく読んで、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内(句読点も一字に数える)にまとめて述べなさい。また、その考えを端的に表現する題を記入しなさい。

### <記事本文>

世界経済フォーラム(World Economic Forum: WEF)が2021年3月、「The Global Gender Gap Report 2021」を公表し、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)を発表しました。この指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。2021年の日本の総合スコアは表1に示すとおり0.656、順位は156か国中120位(前回は153か国中121位)でした。前回と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。

各分野における日本のスコアは、表2のとおりです。

日本は、特に、「経済」及び「政治」における順位が低くなっており、「経済」の順位は156か国中117位(前回は115位)、「政治」の順位は156か国中147位(前回は144位)となっています。政治分野では、スコアは上がっているものの、順位は下がっています。これは、各国がジェンダー平等に向けた努力を加速している中で、日本が遅れを取っていることを示しています。

WEFのレポートでは、日本は政治分野において格差が縮小したものの女性の参加割合が低く、国会議員の女性割合は9.9%、大臣の同割合は10%に過ぎないことにより、「政治」のスコアが0.061と低いままであることが述べられています。さらに過去50年間、女性の行政府の長は存在していないことも指摘されています。また、経済分野についても、管理職の女性の割合が低いこと(14.7%)、女性の72%が労働力になっている一方パートタイムの職に就いている女性の割合は男性のほぼ2倍であり、女性の平均所得は男性より43.7%低くなっていることが指摘されています。

表1 ジェンダー・ギャップ指数(2021)  
上位国および主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの 順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	-
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
16	フランス	0.784	0.781	-1
23	英国	0.775	0.767	-2
24	カナダ	0.772	0.772	-5
30	米国	0.763	0.724	23
63	イタリア	0.721	0.707	13
79	タイ	0.710	0.708	-4
81	ロシア	0.708	0.706	-
87	ベトナム	0.701	0.700	-
101	インドネシア	0.688	0.700	-16
102	韓国	0.687	0.672	6
107	中国	0.682	0.676	-1
119	アンゴラ	0.657	0.660	-1
120	日本	0.656	0.652	1
121	シエラレオネ	0.655	0.668	-10

表2 我が国のジェンダー・ギャップ指数(2021)  
の分野別スコア

分野	スコア	昨年のスコア
経済	0.604	0.598
政治	0.061	0.049
教育	0.983	0.983
健康	0.973	0.979

出典：内閣府男女共同参画局「共同参画」、令和3年5月、8ページを一部改編。